

始まりました！！県内の新たな子どもたちと芸術家が出会い、豊かな時間、感動がまた、生まれています。

横芝光町 白浜小学校 9月12日(月)

41人(5・6年生) 国語

芸術家：半田晶子 河野麻子 松本伊代、山本千絵
内容：体を動かす、発声、コミュニケーションゲーム、
「どんぐりと山猫」配役で音読、詩をグループで演
技を付けて発表

事前に台本をもらい配役、しかし練習はしない、との指示で不安げだったが、イメージゲーム「5人で岩になろう」「4人で波」で笑顔になった。おなかを意識して声を出すと、声も表情も明るくなった。「どんぐりと山猫」を講師の言葉をヒントに背景を想像しながらセリフを言い直すと、本当に声が変わるので互いにびっくりしたり感心したり。好きな詩のグループに分かれて、動きや読み方を工夫した。真剣にグループで相談し練習して、舞台では緊張しながらも堂々と発表し満足そうだった。「普段の音読と違う声が出ていた」と、互いの様子をよく見ていた。

香取市 小見川東小学校 9月26日(月)

32人(5・6年生) 5年生国語 6年生総合

芸術家：三遊亭時松 春風亭正太郎

内容：落語の解説 手ぬぐいと扇子での表現実演 児童も高座で「しぐさ」の体験 落語「牛褒め ぞろぞろ」

最初とはとても緊張していた子どもたちも、「落語ってウソ話なんだよ」から始まる噺家2人の軽妙な語り口にどんどん引き込まれていった。自分たちの書いた言葉で場面を想像することの体験、手ぬぐいや扇子の使い方の技を見たり実際に高座に上がり手ぬぐいや扇子を使ってしぐさすると、おもしろおかしく気持ちがほぐれ、手があがり声が出るようになった。後半は落語を聴きながら、想像の世界に入り込んだようで、体を揺り動かしながら笑いこける姿で溢れていた。子どもたちは本当によく笑った。

千葉市 若松台小学校 10月4日(火)

23人(4年生) 国語

芸術家：柳家花ん謝 柳亭市弥

内容：落語の解説。小噺。落語「牛褒め」「初天神」。手ぬぐいと扇子で仕草をやってみよう。高座にあがった子どもたちが仕草をやってみよう

いつもの教室に緋毛氈と紫の座布団の高座が出現。噺家が表情豊かに語るにつれて、クスクス笑いから顔をうずめて体を揺らし笑う姿に変化した。子どもたちが仕草を披露するとき必ず出離子がついて本格的。すぐには手があがらなかったが、担任が披露すると、自分もやってみよう！と希望者が続出。普段おとなしい子が積極的に手をあげ披露する姿に担任も驚いた。全体に、仕草を見せる方も答えをあてる方も一生懸命で一体感があつた。最後に講師の「落語に興味を持った人は？」に対して全員が挙手で応えた。

市原市 有秋南小学校 9月9日(金)

43人(6年生) 国語

芸術家：大藏教義 宮本昇 上田圭輔

内容：狂言の解説、「柿山伏」上演、登場人物クイズ、構え・摺り足・発声、装束着付け

『昔の人は意外におもしろい、なぜ思いついたのか不思議。いつもとちがうしゃべりかた、笑い方、泣き方、姿勢など学べてたのしかった、表情表現が面白い、ひとつひとつのうごきにきまりがあり、簡単そうに見えた「かまえ」もむずかかった』など、古典芸能は難しくても、生ならではの魅力で味わい、楽しめた様子が、アンケートから読み取れた。「何だか古めかしく、大人の観るもの、よくわからない」という子どももいたが、体験して一気に気持ちが変わった。そう言っていた子が「君いいよ！」と言われて「マジうれしかった」と言ったり、ふだん笑わない子たちが笑っていた。担任は子どもの新しい面が見られたと、うれしそうだった。

山武市 緑海小学校 9月13日(火)

55人(3・4年生) 音楽

芸術家：歌子 古川一 上村純

内容：歌とギターの実演、楽器体験、音楽会の課題曲「世界がひとつになるまで」を練習



最初からヤル気満々の様子で子どもたちが体育館に入場。歌子さんのハイタッチの挨拶で笑顔がいっぱいになる。純ちゃんのギターを抱える姿に「シンガーソングライターだ」と声が出る。「世界がひとつになるまで」を練習するのが今日の目的。「歌詞を感じて歌ってね」「中間の歌や伴奏を感じて歌うのよ」だんだん子どもたちはリズムに乗って感情を込めて歌う。最後は心と体が解放され、友だち同士顔を見たり、自然と手をつなぎ始めた。ジャンベを横にして頭を入れて音を聴くと「うへ〜！ちょー感じる」にぎやかに盛り上がった。

千葉市 高浜第一小学校 10月3日(月)

70人(5・6年生) 音楽

芸術家：BB モフラン ダウディ 當間典子

内容：アフリカの音楽を歌とパーカッション、ピアノ、ギターで実演。子どもたちも掛け声、手拍子、足拍子、ダンスで参加。同じ音でも意味は全く違う日本とアフリカのこぼれについてのクイズ。全員がパーカッションをたたいてリズムをあわせる体験

8人ずつ9列に規則正しく座っていたが、トーキングドラムにあわせて「どんぐりころころ」を歌い緊張がほぐれ笑いが吹き出した。「みんなの心の中に音楽はある。楽しくやろう」と講師。初めてさわるアフリカのパーカッションを真剣にたたき、もっとやりたい様子。ダンスも弾んで、からだいっぱい表現した。日本を含め11か国の子どもたちが学ぶ多国籍の学校。「日本語がわからなくても楽しかった。またやりたい」という声があつた。

柏市 手賀西小学校 6月20日(月)

18人(3年生) 音楽

芸術家：松本雅隆

内容：新聞紙の組曲づくりと演奏 紙筒を使った楽器づくり 班毎発表

雅隆さんは、もの静かな口調で子どもたちに語りかけ、全体の空気感はおだやかで心地よい。新聞紙でつくる組曲では、きもちのいい風の音と、きもちの悪い風の音を、新聞紙をヒラヒラさせたり、バンバンとたたいたりして、音の違いを感じ合つた。バグパイプも加わつての演奏では、おまつり気分となり、子どもたちのおもしろがりほどんどん増し「楽しい！」という表情がどの子にも溢れていた。紙筒など身近なもので素敵な楽器ができることに驚き、歌を歌いながらつくつた。
♪ほーい ほい なにができるかな ほーい

流山市 八木南小学校 9月13日(火)

27人(6年生) 国語

芸術家：大藏教義 宮本昇 上田圭輔

内容：狂言の解説、「柿山伏」上演、登場人物クイズ、構え・摺り足・発声、装束着付け

子どもたちの緊張した様子で始まった。話す声と狂言での声の違いに驚き、構えや摺り足では丁寧に動き、笑いではちょっと恥ずかしそうだったが、声も大きく出て、自信をつけていく様子が見て取れた。「太郎冠者」と「伊茶」の装束をつけた友だちの変わり方に驚き、緊張感がワクワク感に変わっていった。講師への親近感と素直な尊敬のまなざしで集中していて、きゅっとまとまった感じがした。終了時は子どもたちが正座をし、自然と手を着いてお辞儀をしていた。

君津市 貞元小学校 9月29日(木)

57人(5・6年生) 音楽

芸術家：安西真幸 石川幸季

内容：現代舞踊ワーク、ウォーミングアップ、表現遊び、振り付け、「情熱大陸のテーマ曲」で発表

何をやるのか不安、ダンスははずかしそうな子もいたが、講師の体の動き、分かりやすい言い方の振付に、あつという間にとりこになっていた。「いやーん、ばかーん」「ゲー、チヨキ、パー」も、曲がわかるとかっこいい振付になり「できる、できる」とノリノリだった。イメージを自分なりに表現する学年別パートも組み合わせ1つの作品を作り、下級生に発表した。真剣な顔でイメージをおさらい、プロのダンサーと踊って、「ダンスして気持ちよかつた」と、晴れ晴れした満足そうな表情で誰もがはちきれた。



BBモフラン パーカッション体験



落語 おかしくておなかがよくれるよ～

袖ヶ浦市平岡小学校 10月19日(水) 35人(4年生) 国語
芸術家：古今亭志ん八 柳家緑太
内容：「だれがどこかでいつ何をどうしてどうなった」ゲームで導入。落語の解説。面白さを楽しむ。小咄体験。落語を聞く

導入のゲームで子どもたちは、大笑いで気持ちを開きリラックスした。4年生の教科書に落語が出てくるが、このワークが終わってからと1学期にやらずに楽しみに待っていた。落語の洒落の意味がわかると「オー」という喚声が上がって素直に楽しんでいた。小咄の体験でも、多くの子どもが手をあげ「一生に一回かもしれないからやろうぜ」と呼びかけた子もいた。進んで覚えた小咄を家族に聞かせたり、友達同士で教え合ったり興味や関心が高まった

銚子市 猿田小学校 10月28日(金) 8人(4・5・6年生) 音楽
芸術家：歌子 びんたろう 上村純
内容：歌とギターの実演、感じながら歌おう「翼をください」、発表、楽器体験

テーマは「感じながら歌おう」 「翼をください」の歌詞の意味イメージを丁寧に受け止めながら、たった8人の子どもたちとは思えない歌声が会場に響いた。先生方もスタッフも大きな感動をもらい、ちょっとうるっときた。歌い終わった子どもたちの自信に満ちた顔。始まりの緊張した顔、不安だった顔、特に指揮を任された男の子のやり切った姿に「やったね！」市の音楽祭では、先生も子どもたちもワークで得たことを活かして、舞台に上がった。

成田市 八生小学校 10月13日(木) 9人(6年生) 音楽
芸術家：歌子 びんたろう 上村純
内容：『翼をください』を歌う 先生がベースギターを弾き講師との演奏を伴奏にして皆で歌う。楽器にさわる体験

9人の声が歌子さんのリズムをとって歌う楽しさにステップを踏みながら身体を揺すりながら「翼・・」を顔が緩み、気持ちよく、歌っていた。音程が取れず歌が苦手だった男の子が歌う事が楽しいとだんだん大きい声を出していった。先生が講師とコラボするのにベースを持ったとん女の子たちははずかしいのか嬉しいのかほほを高揚させて手で顔そ多い満面の笑み。後半ギターや珍しい打楽器に触れ音を出して大喜び。ギターを弾いた男の子は真剣に教えてもらっていた。

香取市 神南小学校 10月18日(火) 79人(全学年) 体育
芸術家：大淵弘幸 岡本圭
内容：とんとんぱ・色鬼・表情伝言ゲーム・なりきりかくれんぼなどの表現遊び

座り方に名前を付けて素早く動くという導入のところから、子どもたちは引き付けられ、表現するのが苦手でシャイな子どもたちとの事だったが、体を使って思い切り表現を楽しんでいた。なりきりかくれんぼでは思いもかけない発想が見られ、大淵さんはそれを丁寧にひろい個々を大切に受け止めていた。普段あまり自分を語らない子が「将来、自分もこんな風みんなを楽しませる仕事がしたい」との感想を書いてくれて先生方が感動されていた。

市原市市東第二小学校 10月27日(木) 20人(全学年) 音楽
芸術家：BBモフラン ダウディ 典子
内容：アフリカンパーカッションの実演と歌、たいこの体験

アフリカ地図が描かれたタペストリーでコンゴ、タンザニアを見ながら「アフリカの音楽は、指揮者はいないよ。みんなの中に音楽があるんだ」とのモフランさんのはなしを真剣にきいていた。たいこの前に立つと「毛が生えているよ！」とたいこの材料、かたち、ものすごく大きい音にびっくりし、力いっぱいリズムを刻んだ。アンコールでソーラン節を歌うモフランさんに合わせて低学年が思わず踊り始め、踊りは全員に広がった。「大丈夫だよ」と子どもたちからを引出す受容感に教師も学んだ」との担任のコメントがあった。

野田市木間が瀬小学校 10月12日(水) 88人(5・6年生) 音楽
芸術家：BBモフラン ダウディ 典子
内容：アフリカの音楽を歌とパーカッション、ピアノ、ギターで実演。ことばのクイズ。ダンス。パーカッション体験

緊張していた顔がトーキングドラムで笑顔になり「おもちゃのチャチャチャ」に足踏みで乗ってきた。はじめて触った太鼓の革に毛がついていたので「もふもふだ～」と、盛り上がり、隣の太鼓も叩いて音が違うと発見もあり「トンカツ、たべる」「キャベツ」とおもしろい覚えやすいリズムで全員がセッションを楽しんだ。ダンスもみんな盛り上がり、もっとやりたい様子。リラックスして文化で遊んだ国際交流の時間となっていた。バラードの曲はしっかりと感動していた。

横芝光町南条小学校 10月17日(月) 55人(1・2・3・4・5・6年生) 体育
芸術家：大淵弘幸 岡本圭
内容：とんとんぱ・色鬼・表情伝言ゲーム等表現・コミュニケーションあそび

これから何をするか？「遊びます」「遊ぶと心が動くから」と大淵さん。☆とんとんぱ☆いろいろ色おに☆震源地ゲーム震源地はだれ？☆なりきりかくれんぼ☆縦割り活動班で伝言ゲーム全校生徒皆で思い切り遊んだ。みんな溶け込んでいきコミュニケーションをとりながら楽しんだ。ジェスチャーゲームでは喜怒哀楽の感情を爆発させている様子もみられた。「皆が笑って皆の心が動いていた。」との子どもの感想。相手の思いを受け止めることを合唱に活かしたところ、実際に歌声がよくなった。

千葉市 横戸小学校 10月26日(水) 48人(1・2年生) 特別活動
芸術家：チカパン
内容：パントマイムを観る。パントマイムにチャレンジする。小さな作品作り発表

最初はパントマイムって何だろうと思っていた子もやっていくうちに、こんなに面白いんだと思えたようで、だんだん笑顔で表現するようになった。グループごとの作品づくりでは、「みんな同じでなくて良いんだよ」というチカパンのアドバイスに、創造力をはたかせ自由な発想や工夫がみられた。普段あまり集中できない子や、学習への意欲がない子もパントを楽しみ、発表もみんな協力して披露できた。教室に戻ってからも友だち同士で、家に帰ってからも自慢げに家族の前でパントを見せほめてもらったようだ。

野田市 川間小学校 10月11日(火) 71人(5・6年生) 総合的な学習
芸術家：東京シティーパレエ
内容：パレエを楽しもう。パレエの歴史やレッスン風景。ステップの体験。マイムや衣装や踊りの解説。一緒にパレエを踊る。

パレエのレッスンの風景に目を見張り、一緒に柔軟体操をしているうち緊張した様子がほぐれ、ステップと一緒に踏み、パレエの世界に自然と入っていた。気持ちを表現するマイムの体験では「むずかしい」から「おもしろい」になり、コッペリアのパレエシーンではひとつひとつの手の動きや表現にそんな意味があったのかと理解して見ている。男性のダンサーに親しみを感じ最後のパレエ体験では男の子たちも楽しんでいった。まじかに見て驚きや感心でいっぱい、興味がわいてきた等、様々な心の動きと発見があった日でした。

市原市寺谷小学校 10月15日(水) 42人(3,4年生) 国語
芸術家：チカパン
内容：パントマイムを観る 誰にでもできるパントマイム体験 小さな作品づくり

「マイムは言葉なしで表情と体でするお芝居。自由なんだよ！」と次々と表現するチカパンをみて、子どもたちは、かべ、エスカレーター、トランク、ドアに挑戦。休み時間も、にわか舞台の幕の袖に行列をつくり、次々に下りエスカレーターを試していた。いよいよ8人組になって3分間で「かべを伝ってドアを開けると何かの世界があった」の作品づくりでは、海、星空、学校・・・と全グループが表現し、答えあい、拍手しあった。「ふしぎなきもちになった。とうめいなものもみえた」「むずかしかったけどおもしろかった」の声がたくさんでている。

市原市 国府小学校 10月24日(月) 35人(4.5.6年生) 国語
芸術家：三遊亭時松 古今亭志ん八
内容：落語の楽しみ方 高座に上がって小唄体験 落語(てんしき 牛ほめ)を聞く

全員参加の「だれがどこでいつ何をどうしてどうなった」ゲームで大爆笑。「みんなが笑えたのは想像できたからだ。落語はダラメなありえないようなお話。みんなのセンスで笑いのツボはちがうから、どこで笑ってもいいよ！」の巧みな導入で、一気に「なんかおもしろいことが起きそう」といった場の空気ができた。高座にあがっての小唄「パン屋さんはどこ？その角をマーガリン」「冷やし中華まだ？今冷やし中」に新しいバージョンが加わりクラスで流行っているとか。

佐倉市 白銀小学校 10月11日(火) 70人(3・4年生) 音楽
芸術家：歌子 びんたろう 上村純
内容：歌とギターパーカッションの実演 白銀小文化祭に向けて「森のおくりもの」を歌う。

音楽合唱のレベルの高い学校だが、「音楽を感じて歌う」というテーマにより、音・リズム・歌う楽しさを感じ、気持ちを込めて歌うことができた。音楽のイメージは今までは、単に「歌う」だけだったが「感じる」という要素を加えてもらってうれしかった。歌があまり得意でない子も自発的に体を動かし手拍子をしてリズムに乗って歌うと楽しくなると感じた。色々な楽器を見たり、ギターの生演奏はあまり、聴くことがなく新鮮だった。

山武市山武北小学校 10月14日(金) 39人(1,2年生) 体育
芸術家：チカパン
内容：パントマイムの実演、簡単なパントにチャレンジ、小さな作品創りと発表

パントマイムの実演「かべ(壁を想像)どん(ぶつかつた)」をする。「いたくないの？」と子どもたちから声が出る。みんなも挑戦。壁にあたって一斉に転ぶ、おでこをすりすり。こんどは硬い壁だ！ドリンクを飲んで元気を出す、線を書いてドアを開ける、やったぞポーズ！すっかりパントマイムの世界へ入っていった。「パントマイムはね、真似をする」という意味だよと教えてもらう。「どうしてそんなに上手なの？」「好きだから、みんなも好きなものを見つけようね！」すっかりチカパンの人柄とパントマイムの楽しさを感じた子どもたちだった。

成田市 豊住小学校 10月22日(土) 57人(全校) 特別活動
芸術家：大淵弘幸 岡本圭
内容：コミュニケーションを体験する遊び、伝言ゲームなりきりかくれんぼなど

始まってすぐ「自分の思ったまんまでいいんだよ」と話す大淵マジックにかかり体育館狭しと走り回り歓声をあげる。それぞれが自分なりのポーズをとったり友達と組になって表現したり、どの子も笑顔 笑顔。先生方の伝言ゲームにも身体を揺すって大笑い。普段はシャイな子もお互いにコンタクトをし合い、講師の的確な声かけに反応する。「なりきりかくれんぼ」は次々飛び出す子どもたちの発想とそれを受け止める講師とのやり取りで盛り上がった。



狂言 わっ はっはっはっ



チカパン あれ！？かべがあるみたい！

八街市 二州小学校 10月14日(金) 34人(5年生) 国語
芸術家：大藏教義 宮本昇 上田圭輔
内容：狂言についての話し、狂言「柿山伏」の上演、登場人物クイズ、装束着付け体験、構え・摺り足・発声

緊張してぎこちなさが目立ったが、だんだん笑顔がおこり、登場人物クイズの「蚊」で大いに盛り上がった。「柿山伏」の上演では、5年生はふれていなかったこともあり、講師が大まかに説明して狂言を楽しんだ。休憩時間に舞台裏に皆で駆け込むと扇子・小道具に興味津々。装束着付けでは、なんと15人の男子の手が挙った。最後は、「女の人でもできるの？」「どのくらいでなれるの？」「お客さんは何人？くるの」質問が次から次にだされた。

成田市 新山小学校 10月21日(金) 67人(3,4年生) 音楽
芸術家：BBモフラン ダウディ 典子
内容：アフリカのパーカッションの実演と歌、たいこの体験

モフラン登場、子ども達から拍手と「えー！わー！」の声。演奏の初めは緊張した顔で聞いている。いよいよ太鼓の体験。恥ずかしそうな女子チーム、モフランに教えてもらいながら少しずつ自信をつけてきた。もう周りを見回すことなく叩いている。男の子はいきいきと元気よく叩く。「手が痛ーい！」と訴えている。そのうち順番を待っている2人の男の子のノリノリが止まらない。ロールのリズムのところまでひっくり返って足をばたばたとしている。短い時間だけ好奇心いっぱいの嬉しそうな表情。最後の「ハクナマタタ」のダンスで心も体も解放されていた。



朗読 読み方によって変わる詩の楽しさを体験



ニューフィル 美しい音色のオーボエが吹けた！

山武市蓮沼小学校 11月2日(火)

25人(3年) 国語
芸術家：半田晶子
内容：準備運動(イメージや動き、数のトレーニング、神経を目覚めさせる運動)
好きな詩を選び劇(表現)で発表

演劇人がやる体操から始まる。おへそを感じて腰を回す、「ぎゃはは・・・」笑い声、自分の体なのに思うように動かない。大きな声を出す。「のどが痛ーい！」腹式呼吸でやってみる、明らかに声の出方が変化してきた。詩の発表では身体で表現する事を教えてもらう。難しいけれど想像する楽しさ、お互いの声を意識していく事によってコミュニケーションがとれていく過程を子どもたちは楽しそうに、そして真剣な表情で取り組んでいた。

千葉市大宮台小学校 10月31日(月)

26人(4年) 国語
芸術家：春風亭朝也 古今亭志ん八
内容：落語の解説 小噺 実演「牛ほめ」「金明竹」 仕草クイズ 小道具を使って落語の仕草を体験 小噺に挑戦

最初の小噺から膝を叩いたり、そっくり返ったりしてよく笑っていた。刀は、目で追ったところが長さになるねと教えてもらい、早速一緒にやっていた。小噺に挑戦では自分で考えた噺や教えてもらった噺を表情豊かに堂々と披露した。2人はテレビに出るの?登場人物が100人いたらどうするの?質問が次々に出て、テレビから出てきたようなプロと出会えたワクワク感が伝わってきた。落語にとっても興味を持ったようだ。



鉾子市本城小学校 11月2日(火)

27人(5年生) 音楽
芸術家：松本伸二 姫野徹 篠原拓也
内容：オーボエの演奏、オーケストラの話、ストローで音を出す、オーボエを吹いてみる、音楽クイズ、「星笛」合奏

講師の演奏がラストになると「いやだー。もっとききたい」の声があがる。ストローを吹いて音を出す。なかなか難しい。「できたー！」音が出た時の満面の笑顔があちらこちらに。実際にオーボエに触れ音を出してみる。二度とないかもしれない貴重な体験をして音楽に対する興味が深まった。最後にプロの演奏家との合奏に一生懸命リコーダーの練習を重ね、一人ひとりが自信を持って音を出し、みんなの音の一つになって響き渡った。まるでオーケストラの一員になったよう。



◆普段、自己表現が得意ではない子どもも自己解放できている姿がみられた。肌で太鼓をたたき楽しんでいる姿、日本とアフリカの文化のちがいが言葉への興味など、学校はさまざまなことに出会える場、興味関心を広げる場でありたい。地域的に文化芸術的な活動に家庭で参加することが難しい、学校でこうした事業が行われることで、居住地に関係なく誰もが経験することができると、これからも実施してほしいです。【音楽教科で講師B・Bモフランさん】

鴨川市長狭小学校 11月2日(火)

52人(5・6年生) 音楽
芸術家：B・Bモフラン ダウディ 典子
内容：アフリカの音楽 パーカッションと歌ピアノで演奏 パーカッション体験 アフリカのリズムでダンスを踊る

メンバー紹介や出身の国の話を聞き、ライオンキングの演奏がはじまると驚き、歓声があがる。「日本の言葉と同じ言葉がアフリカにもある。意味は違うよ」カタコリ→気をつけて(けがをしないで)マジ→水 みそ→目 マメ→お母さんと紹介。アフリカが急に身近になる。モフランさんたち演奏家の明るくにこやかな雰囲気子どもたちも引き込まれ、ノリノリになり楽しんだ。恥ずかしそうな子にもモフランさんがアドバイスすると、嬉しそうな表情になった。パーカッション体験では「トンカツ食べる」「きゃべつ」先生も子どもも楽しかった。

◆普段の生活の中で落語のおもしろさを自由に話す姿がみられるようになった。プロの表現にふれることは新鮮で魅力的。生の呼吸、目の動き、場の雰囲気、空気の中にある、空気を感ずるといふことが大きな魅力。指導により実技に挑戦できるのも子どもたちにとって良い体験。しっかりと練習し、言葉を大切にして表現する姿があった。

芸術家派遣事業の魅力 ~学校から~

◆本物の音楽、音楽の世界で生きている方との授業は素晴らしい経験。プロの演奏者の世界に引き込まれて、恥ずかしがらずにリズムののったり、表現したりすることのできる児童が増えた。日常の授業では見せない楽しそうな笑顔やリズムに合わせたステップが見られて、リズムを体感している様子が微笑ましかった。【音楽教科で講師うたこさん】

◆朝の音読の時、口だけ動かしている児童がワークの後から、自分なりに間をとったりするようになった。強弱をつけたり、全員で教科書を読む際、自分の声の大きさを考えたり周囲の人に声を聞き、息を

【国語教科で講師チカパンさん】

【国語教科、講師古今亭志ん八さん】

【国語教科で講師半田晶子さん】

【音楽教科で講師安西真幸さん】

鴨川市 西条小学校 11月16日(水)

29人(4年生)音楽

芸術家: BBモフラン ダウディ 典子

内容: ・パーカッションの音楽を聞く。・演奏に合わせてダンスを踊る。・パーカッションの体験。・バラードや元気な曲の体験

入場の時から、ニコニコ顔の子どもたち。事前にモフランさんのユーチューブを見たり、世界地図でアフリカの国々を学習した。メンバーの国のこと、言葉や文化のことアフリカの話に引き込まれた。ライオンキングの演奏がはじまると、体をゆすり、表情も拍手も大盛り上がり。太鼓に、動物の毛がついている事に興味を示す子も。パーカッションは「トンカツたべた」と「キャベツ」のリズムを全員が演奏しダンスもノリノリで大満足の笑顔だった。

こんなことが
できちゃった!
魔法にかけられた
ような90分授業

芸術体験は
正解はない
からすべて
が正解!

どの子にも
達成感
満足感
充実感

プロによる
本物の迫力
緊張感
臨場感

みんなでやれて楽しい!笑顔がいっぱい



スフィンクスになりきったよ



立ち回り、かっこよく決めた!



富津市 竹岡小学校 11月29日(火)

27人(3・4・5・6年生)体育

芸術家: チカパン

内容: ・パントマイムを観る。パントマイムにチャレンジする。小さな作品作り グループごとに作品の発表会をする。

チカパンのパントマイム披露にどんどん引き込まれていく。マイムに合わせて「たすけて〜」と言葉が飛び出した。班に分かれて習ったマイムを取り入れ、短い物語を作り題名をつけた。いよいよ発表。怖いのに微笑ましい3年「エレベーターの恐怖」、女の子らしいかわいさ4年「すれちがいエレベーター」、息もぴったり5年「囲まれてめめしくて」、表情あふれる5年「運命のドア」、不思議な世界を描いた6年「ミラーワールド」。意見を出したり引っ込めたりしながら息を合わせて作りあげた。チカパンと一緒にやれることが楽しくて、すっかりパントマイムの虜に。

香取市 福田小学校 11月18日(金)

52人(全校児童)社会科 国語

芸術家: 早瀬栄之丞 中島宏幸 新村宗二郎
松浦海之介 嵐市太郎

内容: ・歌舞伎の成り立ち。・たちまわりの型・実践。山型、空打、鬼飛 等の型を習う。新聞紙で作った刀で稽古。舞台上立ち回りを発表。

若手4人による歌舞伎の立ち回りと目の前で繰り広げられる華麗なチャンバラに子どもたちは釘づけになり、見得の切り方ももの字を書くように首を回し、目線を決めて睨む事や、立ち回りを分解して教えてもらった。その中から、山型、空打、鬼飛等の型を新聞紙で作った刀で稽古をした。最後は舞台上上がり、付け打ちや立ち回をして盛り上げ、最後はしっかりと格好よく見得を切って決め大きな拍手をもらった。約束事と型がある中で、どの児童も一所懸命身体を右左に振ったり、くるりと回ったりして格好よくなるために夢中になってやっていた。

市原市 加茂学園 11月16日(水)

46人(3・4・5年生)国語

芸術家: 柳家花ん謝 古今亭始 伊藤輝

内容: 落語の楽しみ方 高座に上がって小唄体験 落語(牛ほめ 狸のお礼)を聞く

「落語はダジャレみたいなものだよ〜」「落語の最中は面白くないんですけど〜とか言わないでね」の解説、「あるところにちょっと太ったじいさんがいました。こぶとり〜」等の小唄。巧みな導入に、活発に手があがり、次々に高座に上がった。扇子で床を叩いて戸を開ける、右を向いて左を向いて女役と男役をすることに子どもたちが強く関心をもった。担任の先生方は、おもしろいことを聞いて笑うだけでなく、「くるぞ、くるぞ!」とオチを想像して期待しているのを見て、子どもが想像力を使っているのを感じ、「何もないところから想像してきく芸能」のすばらしい授業だったと感激!



香取市 八都第二小学校 12月1日(木)

54人(全校児童)音楽・体育

芸術家: 藤森裕美 大浴ちひろ

大塚庸介 土屋友紀子

内容: ミュージカルとは・身体表現を用いたゲーム・グループごとの練習・発表

芸術家のかっこいい、お兄さん、お姉さんが笑顔を決めさず歌ったり、踊ったりする姿にくぎ付け!気持ちをはぐす体操をする。栗になったつもりで動く、ねばねばした床だと思っただけで歩く、画紙が一杯の廊下を歩く、次々と出る注文に「えー!」と言いながらも笑顔で演じきっている。次はみんなで「手のひらに太陽を」で創作ミュージカルに挑戦。考える時間は20分。あっという間に振付を考え形になっていく。リードしているのは高学年の子ども達、発表になると恥ずかしそうな、嬉しそうな表情になる。みんなから拍手をもらい「やったー!」のポーズ。

木更津市 金田小学校 11月30日(水)

23人(3年生)音楽

芸術家: 太田雅人 三浦祐輝

内容: 三宅太鼓のリズム打ち。口唱和のリズムで和太鼓をたたく。

体育館の中に軽妙なリズムが響きわたる。「ツクドン・ツクドン・ツクドンドン」三宅島神着木遣り太鼓のリズムだ。「形より思い切って叩いてごらん」講師の言葉に忠実にステップアップしていく。顔を真っ赤にして、手にまめがでける子どももいた。太鼓がどんな風に響いているのか、太鼓に背中をくっつけて、もう一人が反対側から叩いてみる。全身でおもいっきり太鼓を叩く。休憩時間も夢中で叩く。90分の授業で初めて体験した子どもも息がピッタリ合ってくる。気持ちが良いのが分る充実した濃密な時間だった。

富里市 養養小学校 11月29日(火)

63人(全校児童)総合的な学習

芸術家: 大潤弘幸 浅野井優子

内容: 体全体を使って遊びながらコミュニケーション能力を引き出し高めていく。

全員でルールを共有し一緒に遊んだ。「とんとんぱ」では勝ち残った女の子が大潤さんと一緒にウイニングラン。

「今の気持ちを表して」と言われてすばやくVサイン。この子がこんなにハッキリとポーズを決めたことに先生はびっくり。

表現伝達ゲームでは相手の表しているものを見逃すまいとどの子も真剣。最後は「なりきりかくれんぼ」ゾンビもスフィンクスも出現した自由な空間。たくさんの女の子の座り地蔵が腕を組み合い輪になった真ん中で、男の子が噴水になってジャンプした。

芸術家によって子どもたちの表現力 コミュニケーション力が引きだされていく！



ダンスってこんなに楽しんだね



いろいろな音をみんなで出したよ！

旭市 飯岡小学校 11月9日(水)

34人(6年生) 体育

芸術家:チカパン

内容: パントマイムを観る。パントマイムにチャレンジする。小さな作品作り発表

チカパンのマイムを観たり、「ゴチン」という冷たくて硬くて大きな壁やその壁が近づいてくるといふマイムを全員が表現して、少し照れていた心と身体がどンドンほぐれていった。6班に分かれて作品づくり。班でそれぞれ「ゴチン」からの脱出方法を考えるというお題がチカパンから出される。「上手にやらなくてもいい、失敗してもいい」の言葉を添えて。班ごとの発表は、みんな違って個性的。チカパンから決して押し付けられないアドバイスや課題が出され、子どもたちの目が輝いた。2回目の発表。動きが大きくなって新たなチャレンジを見事にやりとげ、想像力あふれる作品ができあがった。

習志野市 秋津小学校 11月9日(水)

40人(2年生) 音楽

芸術家:松本雅隆

内容: ・楽器紹介・へんてこりんの歌・新聞紙オーケストラ・ブンパカパッパ作り

「耳をすませてごらん、どんな音がきこえるかな?」やさしく子どもたちに声がけして、風の音!鳥のなきごえ!「音楽はどうして生まれたの?」むずかしい質問にも子どもは一生懸命考え答えていく。「羊飼いつてわかる。みんなは羊だよ」子どもの想像力を引き出していく。バクパイプの音に合わせて♪へんちょコリンリン手をつなごう♪と大きな声で歌いだす。楽しそう。「新聞紙を使つてのオーケストラ」は地球シンフォニーという物語をイメージしながら音楽を創造していく。静→動→怒り→喜びを身近な新聞紙の楽器で表現する。手作り楽器「ブンパカパッパ」は一番おもしろく楽しかったようだ。時間がたりなくなって、次の音楽の時間にいかしますと、継続されることになった。

千葉市 弁天小学校 11月4日(金)

37人(3年生) 音楽

芸術家:松本雅隆

内容: バグパイプの音に合わせて歌を歌ったり、手拍子を合わせたりしての創作音楽。新聞紙を使つての交響曲づくり。廃材を使つてのリコーダーづくり

バグパイプを吹く雅隆さんの後を「メー」と羊になってついていったり、「へんちょコリンリン」と「ちょコリンリン」の合唱を夢中になって歌い楽しそう。「身の回りにはすてきな音楽があるよ。耳をすませてごらん」と雅隆さん。新聞紙をたたいたりゆすったりして音を作り「美しい地球」という交響曲を作り上げたときは、みんなで様子を見合い息を合わせて静と動を表現した。ヤクルトの容器で楽器を作れるということに驚き、早く作つて音を出したいと意欲的。工夫して音を出すことができると一層うれしい。友だちに吹き方を教えている子もいた。



南房総市 南三原小学校 11月5日(土)

89人(全校児童) 特別授業

芸術家:安西真幸 安西千紗

内容: ①ウォーミングアップ ②創作ダンス
・講師の振付によるダンス練習・春夏秋冬のグループで創作ダンス作り・ダンスの発表

ダンスは、はずかしいと思っていた子も結構いたようだったが、初めからリラックスして楽しみ、すごく動いた。講師の声かけが温かく子どもたちを包み込んでいた。「あの人たちのようになりたい」と、あこがれのまなざしだ。創作ダンスを考えるのも楽しそう。子どもたちの発想力を引き出し、最後には全員で1つのダンスに仕上がりと、一体感と自分たちの流れにしていこうという達成感があった。こんなに楽しいとは思わなかったと、みんなはちやけていた。



南房総市 和田小学校 11月15日(火)

56人(全校児童) 音楽

芸術家:西澤美華子 庄田綺香 吉岡真樹人 山本千絵

内容: 東京シティバレエ団ワークショップ・バレエレッスン体験・バレエの鑑賞

「舞台上上がって一緒に踊ってみませんか?」の講師の声に1~2年生は全員走って舞台上駆け上がった。全校56人全員参加。男の子30人もやらない子はいない。「見るのもやるのも初めての子どもが多いと思います」(先生談)優れた芸術文化との新たな出会いに素直に反応し表現している。「体がやわらかくてすごい、びっくり」高学年ではバレエの歴史や衣装に興味を持った子どもも多くいた。トウシューズや衣装や髪飾りなど手に触れたことで「軽い!」と身近に感じた。台詞がないバレエパントマイムにも感動していた。

館山市 九重小学校 11月15日(火)

76人(全校児童) 音楽

芸術家:BBモフラン ダウディ 典子

内容: アフリカの太鼓ジャンベ等や演奏。アフリカの文化や音楽についてのお話。太鼓に合わせてリズムあそび。ジャンベをたたいてみよう

はじめてワークを体験する子がほとんどで、1年~3年生は最初から乗っていたが、5~6年生になると、手をたたくのも音は出さずポーズだけ、顔も膝をかかえて下向き、気持ちが乗らない子どももいたが、モフランマジックにかかり、体験するころには気持ちがほぐれた様子で、笑顔になり、嬉しそうな表情にかわった。アフリカ人も日本人も人間として変わらないことや、日本語と似ているが意味が全く違う言葉も、子どもたちの興味関心を引き付け、素晴らしい教育力のあるメッセージが込められたワークだった。

市川市 福栄小学校 11月11日(金)

41人(2年生) 音楽

芸術家:BBモフラン ダウディ 典子

内容: アフリカの音楽を歌とパーカッション、ピアノ、ギターで実演。ことばのクイズ。ダンス。パーカッション体験

モフランさんたちが教室に現れた瞬間から、子ども達の瞳が期待感にあふれ、トークにどんどんリラックスしていくのがわかった。言葉の意味の違いに大受けだった。ダンスも次第に上手になり、順応性も抜群、リズムに合わせてノリノリで踊った。集中して楽しみ、太鼓ももっとやりたい、やりたいと大合唱。90分が短く感じられた。このワークを通し、子どもたち一人一人の中に、いろんな種がまかれたように思う。教室に戻ると、だれもがノートに習った言葉を書いていた。

東金市 丘山小学校 12月8日(木)

71人(全校児童) 音楽

芸術家: BB モフラン ダウディ 典子

内容: アフリカの音楽を歌とパーカッション、ピアノ、ギターで実演。ことばのクイズ。ダンス。パーカッション体験

演奏が始まるとすぐに手拍子が出た、口をぽかんとあけて見つめている子もいる。「あきはばら」「へあー」の早いリズムに手を一生懸命叩きながらついていく。体育館の入り口に座り入ってこない男の子、でも演奏は気になっている様子。太鼓の体験が始まると順番を待っている子も膝を叩きながら練習していた。真剣な表情。終わると手をすりすりしながら戻り、「結構、痛いよ」と言っていたが、嬉しそう。少し顔が紅潮していた、まだやりたい顔だ。さっきまで入ってこなかった子が自分の番になるとずっと太鼓の前に座りしっかりリズムをとり叩いた。寒かった体育館が熱気を帯びてきた。

【実施した体験】

- ・アフリカの太鼓とダンス
- ・オーボエ
- ・歌とギター
- ・和太鼓
- ・バグパイプと紙楽器づくり
- ・朗読
- ・演劇コミュニケーション
- ・狂言
- ・落語
- ・歌舞伎
- ・バレエ
- ・現代ダンス
- ・クラウンのバルーン
- ・パントマイム
- ・ミュージカル 等

芸術体験が教科として成り立ちすばらしい結果が！

子どもを引きつけ、
子どもの能力を伸ば
す等、普段できない取
組となった

興味関心の持たせ方、
指導法等、役立つこと
がいっぱいあった！

富津市 天神山小学校 12月12日(月)

42人(全校児童) 音楽

芸術家: BB モフラン ダウディ 典子

内容: アフリカの音楽を歌とパーカッション、ピアノ、ギターで実演。ことばのクイズ。ダンス。パーカッション体験

全校児童が縦割り班でグループを作り、そこに先生も加わって8人での演奏。♪トンカツたべる♪ボンバカボンバカのリズムが重なりみんなが笑顔。「ロール」の声での連打に力が入りすぎ、手が痛くなったと見せてくれた子もいた。叩き終わって戻ってきた子が、替え歌にして膝を叩いて大笑い。ダンスもみんなノリノリで、6年男子は高さを競い合うように思い切りジャンプしていた。シャイで表現が苦手と聞いていた姿はどこにもなく、全身でリズムを感じ表現していた。

習志野市 袖ヶ浦西小学校 12月9日(金)

81人(5・6年生) 音楽

芸術家: BB モフラン ダウディ 典子

内容: アフリカの音楽を歌とパーカッション、ピアノ、ギターで実演。ことばのクイズ。ダンス。パーカッション体験

のりのりの5年生とちょっと恥ずかしそうな6年生。先生曰く、「普段は違うんですよ。いつもは逆なんですけど〜」アフリカの言葉と日本語の意味の違いに興味をもった5年生。ダウディのギター、モフランの歌やピアノ、3人のハモリがきれいでしたと音楽性に感動した6年生。ダンス体験はどちらも楽しかったようだ。パーカッション体験は「アフリカの音楽に興味をもてた」「迫力があつた」「以外と力を入れて叩くものなんだな〜」とワークショップならではの感想が多い。アフリカの異文化体験も出来た授業だった。

君津市 小櫃小学校 12月8日(木)

28人(3年生) 音楽

芸術家: チカパン

内容: パントマイムを観る。パントマイムにチャレンジする。小さな作品作り発表

カベ 月 エスカレーターなどパントマイムを披露。物語になっているパントマイムでは、イメージが浮かんでいる様子で、笑顔になったり お〜っ！すごいという顔をしたりしていた。「パントマイムはものまねなんだけど、気持ちをこめてものまねをするの。気持ちを表すの」とのメッセージが子どもたちに伝わった。班代表の6人が前に出て、ちようちよを隣に渡していくマイムをやった。手でちようちよをつくり、目で追いながらちようちよを飛ばし、目を止めて隣の子どもの頭に止まらせる…と、受けた子どもは頭にとまっているちようちよを羽ばたかせるように飛ばして次の子へ…。最後の6人まで終え、ほっとしたような歓声があがった。

香取市 八都小学校 12月14日(火)

34人(4・5年生) 国語・総合的な学習

芸術家: 春風亭朝也 三遊亭時松 伊藤輝

内容: 言葉のイメージ「何時・何処で・誰が・何して・どうなった」動きのイメージ「一人何役もやる・扇子・手ぬぐい」落語を聴く「ぞろぞろ」「うしほめ」実演

最初は緊張していたが、「落語は嘘話」「一人一人がイメージをふくらませていくんだよ」という話で少しほぐれ、おそばを「ずっ！」とすすするしぐさにびっくりし、手ぬぐいのしぐさも思わずうなづいてた。「高座に上がりたい人」と声を掛けられた時は、やってみたい気持ちとはずかしい気持ちでなかなか手があがらなかったが、男の子が二人で勇気を出して、照れながらも嬉しそうに演じた。後半の二つの落語はすっぱりその世界にはまり、最初の緊張はどこへいったかと思うほど身体をゆすって笑い、時に食い入るように話に入り込み、また爆笑した。イメージがすべての落語の世界をどの児童も満喫できた。

四街道市 旭小学校 12月14日(火)

60人(1,2年生) 体育

芸術家: チカパン

内容: パントマイムを観る。パントマイムにチャレンジする。小さな作品作り発表

“壁を叩く・ドアを開ける”パントマイムを子どもたちは楽しそうに身体全体を使い、一生懸命に表現していた。「上手にやるのではなく、やってみることが大事なことだよ」と教えてもらい、講師のマネを夢中でやっていた。“壁を壊して脱出する”題をもらい、グループに分かれ、活発に意見を出し合い、協力しあってタイトルをつけ、自分たちの作品を創り上げた。「パントマイムは口ではなくてからだで表すから、少し難しかったけれどたのしい」どのグループの子どもたちも自信を持って表現していた。

横芝光町 大総小学校 12月14日(火)

50人(全校児童) 音楽

芸術家: 西澤美華子 庄田絢香 吉岡真輝人

山本千絵
内容: バレエに関する基礎的な知識、技能。実際にバレエ団の方の演技を鑑賞。質問コーナーでバレエ団の方と交流する。

初めて目の前で繰り広げられた踊りは臨場感があり、子どもは主体的に参加していた。バレエパントマイムでは求婚した男性が女性に断られるシーンを言葉を想像理解し、大声で笑いがおきた。質問コーナーでは「何県出身?」「いつから体がやわらかくなったのか?」「バレエを始めたきっかけは?」「なぜバレエ団に入団したのか?」など質問が相次ぎ、子どもがバレエに高い関心と興味が持てた。「ぼくもバレエ団になりたい」感想もあった。



ステージで踊ってドキドキしたけど、楽しかった



色々風船で作ったけど、もっともっと作りたくなかったよ

教師としての視野を
拡げ、教師の意識改革
が大事だと思った



普段の授業とは異
なった視点で学習
ができ、考え方の刺
激を受けた



旭市 中和小学校 12月5日(月)

32人(3・4年生) 国語

芸術家: 半田晶子 石田庸子 松本伊代

山中淳子

内容: 準備運動、発声と発音、声の出し方。「どんぐりと山猫」群読。好きな詩の朗読練習。詩の朗読発表会

最初は緊張していたが、体をいろいろ動かし、ゲームをすることで徐々に笑顔が増えた。半田さんの大きく重く響く声に驚きながらも「どんぐりと山猫」を徐々に大きな声で堂々と台詞を言い、どんぐりの言い合う場面では、体を動かしながら面白がって表現していた。選択した詩のグループになり、体育館の道具も使い、劇のように自由に表現してとても楽しんだ。伝えたいことは、気持ちを込めて表現する、子どもたちの集中力はすごかった。



習志野市 袖ヶ浦東小学校 12月5日(月)

58人(2年生) 生活科

芸術家: ブッチィー びり 大森ちづえ

内容: クラウンによるパントマイム、ジャグリング。風船であそんじゃおう。

「いつもだったら2時間は長いけどワークショップでは2時間なんてすごく早かったです」のアンケートの声。クラウン芸に身を乗り出して観ている2年生。反応が素直で、ジャグリングのすごさやパンツ丸見えのおかしさには大笑い。風船ワークショップもネズミ、花、弓矢とバージョンアップしていく。「風船ってこんなに楽しかったんだな〜」今までの経験を上回る体験でまたやりたいと意欲も高まった。普段学校の話あまり話さない児童が家でたくさん話していたと、担任から後日聞いた。

船橋市 咲が丘小学校 12月2日(金)

32人(4年生) 国語

芸術家: 春風亭朝也 三遊亭時松 伊藤輝

内容: 落語についての講義と実演「牛ほめ」「転失気」。言葉遊び、ソバや饅頭を食べる真似、小喃など、高座に上がり体験

落語のおもしろさにはまって、おもしろくておかしくて楽しんだという感想がほぼ全員。落語は身近で親しみやすいものであることを肌で感じることができた。学校からは「落語のワークショップに取組むことにわくわくする。楽しい時間(授業)になるね」と期待が高かった。「誰が、いつ、何を、どうした」を各自書き出し、それをグループごとに発表するワークは、みんなで言葉を紡ぎだす心地良さや共有・共感し合う体験ができ、満足げな顔がとても印象的だった。自分の考えや工夫一つでこんなにも言葉を楽しむことができるということにも気がつくことができた。

銚子市 飯沼小学校 12月2日(木)

55人(5・6年生) 学級活動

芸術家: チカバン

内容: パントマイムを観る。パントマイムにチャレンジする。小さな作品作り発表

パントマイムはギリシャ語で「いろんなものまね」という意味。「ゴチン」の実技披露。壁のイメージは?かたい?やわらかい?ざらざら?イメージを持ちながら動いてエスカレーター体験をする。少しずつイメージがつかめたようだ。「動かないかばん」のパントマイムも披露。チカバンの世界に引き込まれていく。「失敗してもOK。正解も間違いもない。やって見るのが大事!」チカバンのメッセージを子どもたちはうなずきながら聞いた。班ごとの作品作りは盛り上がり、みんなキラキラしてパントマイム自体を楽しんでいた。最後のチカバンへ花束を渡す時、先生と6年生で早速習ったパントマイムで贈呈。チャレンジな試みでみんなでまると楽しんだ。



山武市 鳴浜小学校 12月7日(水)

53人(1・5年生) 図工/生活科

芸術家: ブッチィー びり 大森ちづえ

内容: クラウンのショーを鑑賞。パルーンアートの作成や遊びの体験。

びりとブッチィーの姿に笑顔満開で期待感一杯の表情。ブッチィーたちの挨拶に「イエーイ!」と一緒に反応、観てるだけで面白い!と言わんばかり。ショーが始まると、目の前に繰り広げられるエンターテイメントの世界に釘づけ。目をキラキラさせながら笑う。パンツが出てくるころでは「キャー!」といって目を隠しながら笑っている女の子でも、また見ながらげらげら笑う。パルーンで作品を作り始めると、曲げるところが怖いのか慎重にこわごわとやっている。小さな手で一生懸命作る。最後に弓と矢を教頭先生めがけて撃てー! 蜂の巣をつついたように大騒ぎ。

香取市 小見川北小学校 12月7日(水)

36人(6年生) 総合的な学習

芸術家: 太田雅人 三浦祐輝

内容: 和太鼓を用いたアイスブレイキング。和太鼓実演・指導 三宅太鼓の連続打ち

ウォーミングアップから始まり、挨拶の仕方、ただ単に叩くのではなく、相手と目と目を合わせる、相手を感じるなど太鼓を叩く時の精神的なことも指導され、子ども達をみながらもう一段高いレベルまで引き上げることに挑んだ。体の重心の置き方、重心の移動、パチさばき、足の開き具合など、子どものよかった探しをしており、「すばらしい!」と声をかけている。これらが子どもたちのやる気、チャレンジする気持ちをどんどん高めていった。三宅太鼓の連打うちは真剣そのもの。見学した下級生から大拍手をもらった。子どもたちの頬が紅潮し、やり遂げた満足感でいっぱい。素晴らしい授業だ。

富津市 湊小学校 12月7日(火)

51人(5・6年生) 音楽

芸術家: BB モフラン ダウディ 典子

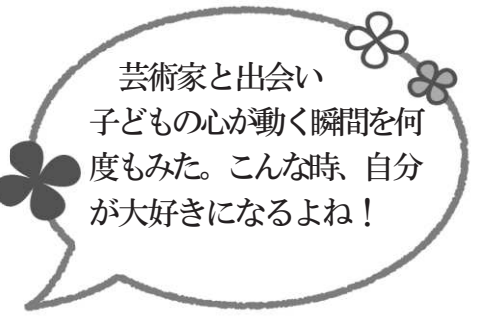
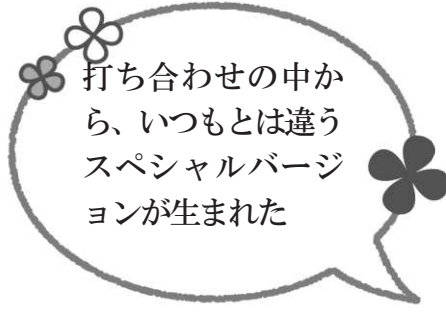
内容: パーカッションの音楽を聞く。演奏に合わせてダンスを踊る。パーカッションの体験。

初めて聞く音楽の迫りに目をパチクリ!でも2曲目にはリズムに乗って手拍子で楽しんでいた。授業のサンバつながりで、リズムのルーツはアフリカだよ、といろいろなリズム変化に興味津々。太鼓の体験では、楽器の音色や叩き方に、日本の楽器との違いを新鮮に感じていた。慣れてくると叩き方や音の強弱、リズムを創りながら楽しんでいた。ダンスは非常にノリノリ! 失敗してもいいんだという空気作りが、安心してやれたのだと思う。お礼の言葉の女の子、「気分が舞い上がっております。」と表現した。

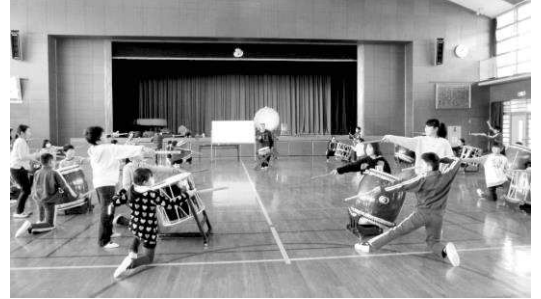
八千代市 南高津小学校 1月20日(金)

41人(6年生) 国語
芸術家:大藏教義 宮本昇 上田圭輔
内容:狂言について。「附子」の上演
登場人物クイズ 装束の試着体験
体験(発声・構え) 質問

体育館に松が飾られ、緊張気味の子どもたち。まず正座して、お辞儀の仕方から教わる。気さくな大蔵さんの話かけに、狂言の世界へ引き込まれた。全員が生徒の狂言を見るのははじめてとは思えないほど、反応して楽しんでた。試着体験もジャンケンで決めるほど希望者がいた。実技披露も、当日、「附子」に変更して上演。事前に読んでいたので、声を出し笑いながら見入っていた。発声と構えは体育館全体に響く声で楽しそう。狂言はおもしろい、興味をもった、見に行きたい、演じている方々がかっこいい!の感想があり狂言を見たり体験することで世界が広がった。



まわりの声をきいて気持ちをこめてうたったよ!



ヨイ、ヨイ、ヨイヤサーッ!最後の決めポーズ

四街道市 みそら小学校 1月27日(水)

33人(6年生) 国語
芸術家:大藏教義 宮本昇 上田圭輔
内容:狂言の説明、実技披露「柿山伏」、登場人物クイズ、衣装体験「太郎冠者・伊茶」の変身、大きな声で笑う 発声 すり足 構え おじぎ等諸体験

始まりは講師からの質問タイム「今日、朝ごはん食べた? ご飯派、パン派・・・」子どもたちの緊張がほぐれて笑顔がでてきた。狂言を観終わった後、「面白かった」にいつせいに手が挙った。ちょっとおとなしかった女の子たちは休憩時間に講師と一緒に「蟹や蚊の動作」に盛り上がっていた。女形の伊茶の装束に男の子が元気に手を挙げ、サイズぴったり「着心地がいい」。太郎冠者の子は「身体が引き締まる。着れてよかった。」よほど嬉しかったのか、家庭に帰って自慢していたようだ。

船橋市 小室小学校 1月26日(木)

39人(4年生) 国語
芸術家:三遊亭時松 春風亭一蔵 伊藤輝
内容:落語の基本 扇子や手ぬぐいでしぐさ。落語実演 「子ほめ」「転失気」。「いつ どこで だれが・・・」。子ども達が高座に上がり仕草を披露。質問

巨漢の一蔵さんの演目「子ほめ」は、声も身振りも大きく子どもたちも大笑い。そのパワーにのせられた。時松さんの「転失気」では、子どもたちはその内容を理解し、クスクスと、また大笑をしていた。「いつ どこで 誰が・・・」は大うけ。その後、4人の子どもが仕草に挑戦した。ラーメンの仕草で、一蔵さんは中華料理店の場面を設定し、注文を受けラーメンを運ぶ店員となった。仕草が終わると、扇子を広げてばんざ〜い!やったあ!という気持ちを出して、子どもにもエールを送り、場を盛り上げた。大賑わいの落語の授業だった。

東金市 源小学校 1月21日(土)

47人(全校児童) 音楽
芸術家:BBモフラン ダウディ 典子
内容:パーカッションの音楽を聞く。演奏に合わせてダンスを踊る。パーカッションの体験。

東金文化会館のカーテンがあがり、モフラン登場。「おー!」という声上がる。演奏が始まりテンポが速くなる。「ついてきてねー」「ついてくぞー!」子どもたちもすぐに反応した。太鼓のワークショップ、最初のグループが叩くと、待っている子も膝でリズムをとって叩いていた。体験が終わるとダウディにハイタッチして舞台を降りる。ダンス体験、アフリカのダイナミックなリズムと動きに乗り夢中になって踊った。何人かに舞台上に誘うと「待ってました!」と元気に上がって踊る。「子どもはみんなダンスが大好きだ!」

速報:平成 29 年度文化庁「文化芸術による子供の育成事業」が採択!

「平成 29 年度文化庁芸術家派遣事業」(NPO 法人等提案型)が、子ども劇場千葉県センターへ委託が決定しました。平成 29 年度も県内 70 校で実施していきます。



匝瑳市 吉田小学校 2月13日(月)

54人(全校児童) 音楽
芸術家:歌子さん ぴん太郎 上村 純
内容:リズム、歌詞、仲間の声・演奏、音楽の楽しさの4つを感じながら歌う。ミニコンサート。「WAIになって踊ろう」発表

「まずは、聞かせてもらいます」に大きなハリのある声、低学年の子どもたちは元気いっぱい歌った。振付をグループごとに考えるがすぐに動きだすところ、話し合いが続き動きだせないところ、互いを見合い、振付が完成。身体全体でリズムをとって床が鳴って実に楽しそう。ギターの微妙に変わる音の違いに「あっ違う、また違った」と側の子と顔を見合わせながら楽しんでた。最後は、自分たちの振付をした歌を披露。やり切った満足した笑顔があった。3月の発表会にむけて全校で毎朝、練習を楽しんでいる。

九十九里町 九十九里小学校 2月8日(水)

34人(5年生) 音楽
芸術家:太田雅人 三浦祐輝
内容:笛と太鼓の演奏で出迎え。太鼓を使った準備運動(心と体のウォーミングアップ)。3人組で太鼓をたたく。ぶち合わせ太鼓を仕上げる練習と発表。

100キロを超す大太鼓を太田さんと三浦さんが向かい合って打つ演奏に聴き入っていた。太田さんの太鼓のリズムに合わせて立ったりカニ歩きをしたりというゲームをして、たちまち笑顔に変わった。遊びながらバチの扱い方、組んでやるときはアイコンタクトが大事など太鼓のルールも身に付けていった。子どもたちのやる気スイッチが入ってどんどん講師の指示が難しくなってもこなしていく。最後、6年生が見ている中、1組と2組が向かい合い、3人組のぶち合わせ太鼓を息を合わせ「ヨイ、ヨイ、ヨイヤサーッ!」とやりきった。

コーディネーターが学校と芸術家をつなぎ最高の授業に!

丁寧な打ち合わせで課題も解決 相談しやすい関係をつくった

自分が楽しいだけでなく、みんなですべて楽しんで楽しかったと感じたのは、相手をおもいやる気持ちがあるから

地域的に文化に触れる機会が少ない学校での実施は、県内すべての子どもたちが芸術に触れる機会の実現になった

学校との丁寧な打ち合わせが大切。閉校等学校の現状を芸術家につないだ

学校での授業はどの子ども参加でき公共性のある事業だと思う。地元のこともよくわかった

匝瑳市 栄小学校 12月15日(水)

35人(6年生) 国語

芸術家:早瀬栄之丞 中島宏太郎

新村宗二郎 松浦海之介 嵐市太郎

内容:歌舞伎の簡単な解説、立ち回り実演との解説。附打、見得、女方の説明実演新聞紙の刀で立ち回り体験。発表

歌舞伎ってなんだ?から始まったワークショップ。講師の立ち廻りの姿の美しさに子どもたちから「わー!」という声上がる。女形に挑戦、手を挙げた体の大きな男の子なかなか思うようにならない。少し形を教えてもらおうと最後はきれいなしぐさと歩き方になり、みんなから大きな拍手をもらった。堅かった表情が緩んでうれしそう。休憩時間になると芸術家のところに人だかりができ、質問攻めになった。新聞紙で作った刀で立ち回りを2人組で練習。舞台での発表では「付け」の役ともども見事にやりきって満足そう。

旭市 滝郷小学校 1月12日(木)

46人(2・3・4年生) 国語・総合的な学習

芸術家:神山一郎

内容:コミュニケーションゲーム、拍手送りゲーム、芝居は何?グループに別れて即興で芝居をする。

「芝居とは」…集中することと他の人とコミュニケーションをとること。回りをみて舞台を広く使いながら歩くゲームや拍手送りゲームを通して芝居の要素を体験。気持ちを開放して楽しそうに表情が良かった。グループごとに即興(アドリブ)で芝居をする。一人が好きようにポーズをとり次の人がはいっていく。状況を示したり感情が入って劇になっていく。素直に表現する子どもたち。1人が入っていくと世界が変わり、ストーリーが生まれ時間が見える。一言しゃべると話が進んでいくのがおもしろい。みんなで作り上げることの楽しさや大切さを学んだ。

市原市 市東第一小学校 1月12日(木)

102人(全校児童) 総合的な学習

芸術家:BBモフラン ダウディ 典子

内容:パーカッションの音楽を聞く。演奏に合わせてダンスを踊る。パーカッションの体験。

全学年102人が特別授業でとりくんだワークショップは、子どもたちの満足感を達成するチャレンジだった。特に高学年の事前の期待感「ふつう」が多かったが、実施後に91%が「やりたい」「もっとやりたい」と、満足感に変わった。学年があがるごとに難しいリズムに挑戦した。「いろんなリズムでたいこをたたき、ジャンプしたり、『あたま、かた、こし、フリフリフリ』と歌いながら踊ったり、楽しかった。ドキドキしたけどたたけてうれしかった。やめたくなかった」との感想。フレンドリーなアフリカの人、アフリカの言葉に興味をもったとの感想が多かった。

茂原市 二宮小学校 1月10日(火)

29人(6年生) 国語

芸術家:大蔵教義 宮本昇 上田圭輔

内容:狂言の説明、実技披露「柿山伏」登場人物クイズ、衣装体験「太郎冠者、伊茶」 構え(立ち方) 摺り足、発声、所作

体育館に入ってくると緊張した表情で講師からの投げかけにも声が出ない様子だったが、上田さんの一発芸で気持ちがほぐれ、大蔵さんの第一声に度肝を抜かれ、一気に引き込まれていった。人物クイズでは、興味があり本を読んでいた子が「蚊」を当てることができ得意気だった。エピソードに、家で妹とけんかをしてた時「やい、そこな奴」と動作をつけて怒っていたという話もあった。6年生を送る会に向け発声を生かしたいと張り切っていた。

野田市 二ツ塚小学校 1月19日(木)

61人(6年生) 国語

芸術家:大蔵教義 宮本昇 上田圭輔

内容:狂言の説明、実技披露「柿山伏」、登場人物クイズ、衣装体験「太郎冠者・伊茶」の変身、笑う・泣く 発声 すり足 構え おじぎ等諸体験

かしこまっていたり照れていた子どもたちが、柿山伏の仕草や台詞回しに引き込まれ、柿を食べるシーンではあちこちで笑い声が上がった。狂言はコントとわかりやすい例えとともに600年続いているとの説明には想像がつかないという顔つきでいたが、笑う、泣く、歩くという仕草を練習するうち、全員が狂言師ようになってきた。「え、あの子が!」と先生が驚いた子が伊茶の衣裳でしずしず歩いたり、全員が正座で手をついた最後のあいさつの自然さは狂言の世界を体感した子どもたちの姿だった。大蔵さんとハイタッチしながらニコニコと退場し授業は終了。

八街市 笹引小学校 1月16日(月)

66人(5・6年生) 音楽

芸術家:歌子さん びん太郎 上村 純

内容:リズム、歌詞、仲間の声・演奏、音楽の楽しさの4つを感じながら歌う。ミニコンサート。「WAになって踊ろう」発表

どんなことが始まるのか、ちょっと戸惑っていた子どもたち。12月の歌として毎日歌ってきた「WAになっておどろう」を歌いだと5年生は体ごと素直に実に嬉しそうに歌う。本当はやりたいのに周りに合わせているのか自分を出し切れない6年生。グループごとに振り付けていくと「こうしたら、こうやってみよう」と楽しそうな声と笑顔が出てきた。段々と気持ちがほぐれてきたのがよくわかった。最後のミニコンサートでは、ひとつにまとまり、リズムに乗って体が大きくゆれて、すばらしい歌声が響いた。

成田市 神宮寺小学校 1月13日(金)

42人(5年生) 国語

芸術家:大蔵教義 宮本昇 上田圭輔

内容:狂言とは「柿山伏」実演・狂言クイズ・衣装を着てみよう・立ち方・動き方の体験

講師の狂言の説明聴きながらも何が始まるのだろうかという表情だったが「柿山伏」しぐさや台詞の面白さに引き込まれ、次々と笑いが起きた。講師曰く「昔の言葉だから解らない言葉は無視していいんだよ。面白かったら笑おう!」まさに笑い声が響き、狂言の面白さががすつどの子にも入っていった。クイズは大いに盛り上がり手が次々あがりいろんな答えが飛び出す。着物を着た子「帯がきつい」と言いながらもまんざらでもなさそう。大声で笑う事や、泣き方もやってみた。中腰の立ち方を習いこんだ大変な格好で1時間も狂言をやるのかとみんなビックリして、講師を尊敬の眼差しで見ている。